



グリーンコンシューマー大阪ネットワーク

NEWS! 2016年10月号

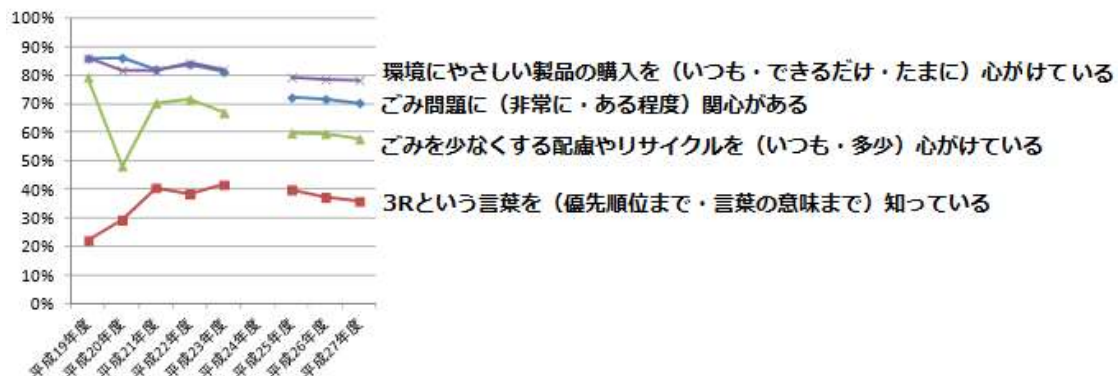
買い物が地球を救う。お財布にも!

「もったいない」でいろんな智恵と工夫。人から人へ「物」語り

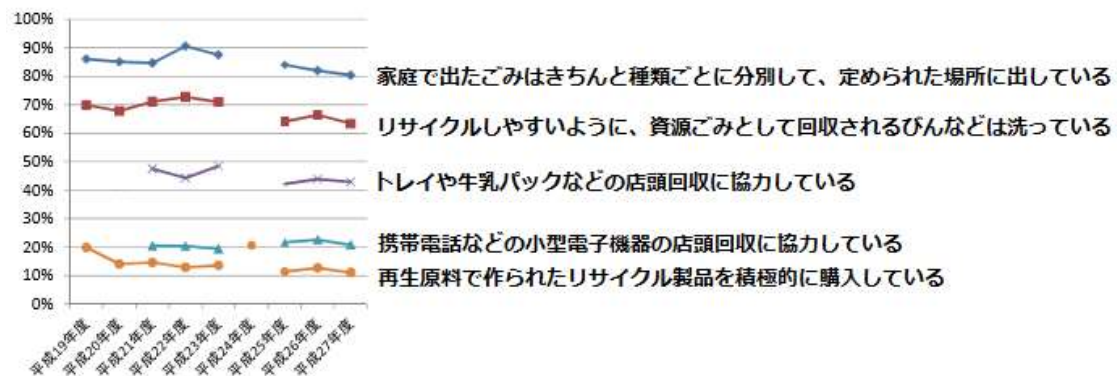
# 3R 行動見える化ツールっ てなんだ?

中央環境審議会総合政策部会が「第四次環境基本計画の進捗状況・今後の課題（案）」について、9月12日から同30日までの間、意見募集を実施しました。大部の案をざっと眺めていると、「物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組」の項にある次のグラフが目につきました。

## 意識



## 行動（再生利用（リサイクル））



最近のデータでは、環境配慮の意識は後退し、行動も以前よりは悪くなっている！（次頁へ）

案には、「レジ袋をもらわないようにしたり（買い物袋を持参する）、簡易包装を店に求めている」「詰め替え製品をよく使う」といったリデュースの行動と、「不用品を、中古品を扱う店やバザーやフリーマーケット、インターネットオークションなどを利用して売っている」といったリユースの行動についてもグラフが載っていますが、横パイか右肩下がりの状況は変わりません。

この現状について、案では「消費者に対する3Rの普及啓発が図られているが、循環資源について、どのように収集され利用されるのか、十分に把握するには至っていない」とされ、今後の課題では「2Rを重視したライフスタイルの変革」で

○引き続き消費者や事業者の意識改革を進めるために経済的インセンティブを活用するとともに、今後、他の手法も含めたポリシーミックスを推進し、2Rが進む社会経済システムを整えていく必要がある。

○『3R行動の見える化ツール』を活用した2Rの推進については、今後、国民や企業による利用拡大を図っていく必要がある。

とされていました。『3R行動の見える化ツール』ってなんだ？

環境省のサイトを調べてみると、ありました。『3R行動の見える化ツール』とは、事業者、消費者が行う3R行動について、その行動量を入力することで便宜的に環境負荷の削減効果を数字で表すことができる計算用ツールなんだそうです。

### ■ 見える化ツールのイメージ

3R行動項目	商品名	事業者の行動量	天然資源投入量削減(L)	廃棄物発生量削減(kg)	最終処分量削減(kg)	CO2削減 kg-co2
減量容器への置換	軽量ペットボトル(500ml)の清涼飲料水	1000本	原油 8.19	9.00	0.50	35.38
リターナブル容器の利用	ビール瓶(500ml)1本購入当たり	500本				33.50
食品トレー無し販売	食品トレー→ポリ袋(肉100g相当)	1000個				19.08
レジ袋辞退	レジ袋(Lサイズ)	2000回	原油 6.46	13.6	0.76	65.58
ペットボトルの回収・リサイクル	ペットボトル(500ml、33g)	10kg	原油 6.70	—	0.40	32.30
⋮						

各々の3R行動の環境負荷削減効果を自動計算(行動回数×3R原単位)で表示

実施している3R行動の行動量を入力するだけ

うーん！？

こんな計算をわざわざする事業者、消費者なら、リデュース、リユース、リサイクルの優先順序を意識した行動が取れているんじゃないでしょうか？

# 3Rってなに？

## みんなで地球を救う合い言葉

①ごみを減らすこと ⇒ Reduce(リデュース)

②繰り返し使うこと ⇒ Reuse(リユース)

③資源として再利用すること ⇒ Recycle(リサイクル)

3つの頭文字を取って3R、循環型社会形成のキーワードです。

## 3Rに取り組みの順番

Reduce → Reuse → Recycle

本当に必要なものを買う  
買い過ぎに注意する

ひとつのものを  
繰り返し大切に使う

正しく分別し、  
資源物を新たな製品に



## ごみゼロ大阪に向けて～まつり de リユース PART 2

大阪府地球温暖化防止活動推進員 3R 推進チーム/Rびんプロジェクトが主催し、大阪びんリユース推進協議会、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、天神祭ごみゼロを考える会が実践に基づいたリユースセミナーが開催されます。

**日時** 11月12日(土) 13:30～16:00

**場所** 中央公会堂大会議室 (アクセス: 地下鉄・京阪淀屋橋駅)

**内容** 基調講演「天神祭ごみ実態調査・組成調査報告」

**講師** 花嶋温子先生 大阪産業大学 人間環境学部

パネルディスカッションでは、3年の実績がある祇園祭ごみゼロ大作戦でリユース食器を導入した、ecotoneの太田航平さんや天神祭ごみ調査隊のボランティアリーダーとして活躍中の岡見厚志さんなどが話題提供し、これからの祭りのごみの在り方に迫ります。